



竜丸の根魚五目仕掛け例

※( )内は別のタックル  
 竿は全長2m前後、青物用など  
 デッキスマックツ(2.0m) テルファタックル  
 フロットなどで  
 パワークレンゼ子カルカン  
 リール=小型電動  
 直結したモック  
 1.5~2m  
 オモリ=80号  
 30~50cm  
 1m  
 ハリ=スズムツ16号、イセアマ15号など

「しいよ」と私にポツリ。しかしそんな不安を払拭するかのようには右トモの野口さんの竿にさっそくアタリが訪れた。澄んだ海中から浮上してきたのは1キロ弱のカンコ。写真を撮らせていただき、野口さんが釣りを再開するとすぐさまアタリ。タモに収まったのは35センチのオニカサゴだ。潮回りすると、今度は右ミヨシの江森さんと左ミヨシの大矢さんに黄色いヒレが艶やかなアマメカサゴがヒット。カサゴ三種のそろい踏みとなれば、あとは大本命の登場を願うばかりだ。

「おっ、ハタだな！」船長の声に振り返ると野口さんのロッドがギューンギューンたたかっている。慎重に手で巻き上げ、見えてきた魚影はグレー色。「やったー！マハタだ！」自分が釣ったわけでもないのに思わず歓声を上げてしまった。後検量1.8キロのレギュラーサイズ、会心かつ感激の1尾で取材成立！コロナ禍でなければ船長とハイタッチを交わしたい気分だ。大本命をカメラに収めたところで私も参戦。船長に伺ったタックルや釣り方の要点は次の6つだ。

- ①道糸はPE4号で統一。
- ②ハタはエサをくわえると一気に根に潜り込もうとするので、アタリ直後の突進をいならせる腰が強い調子の竿がおすすすめ。もちろんリールのドラ
- ③3キロ以上ともなればその引きは想像以上。ハリス8号なんてあつげなく切られる。5キロ級がヒットすることも見据えてハリスは12号がおすすすめ。
- ④着底したら根掛かりしないよう素早く1メートル巻き上げる。ハタのタナは広いのでそこから超スローで5〜10メートル巻き上げていく。基本タナの底上2〜3メートルでほつたらかしているだけで根しか釣れないとのこと。
- ⑤探り上げてアタリがなければ、再度落とし直して探り上げる。この動作が常に上を見ている根魚に対してアピールになり、根掛かりも防げる。
- ⑥アタリがきてハリ掛かりしなかつたら、すぐに仕掛けを落とし直す。エサが付いていれば再びアタックしてくることもあるとのこと。

続々と大本命！

「ああっ……」江森さんにビッグヒットがあったようだが、根に潜られたか12号のハリスが途中から切られてしまっていた。イワシにダメー



▲アタリが速い流しも誘い続けて食わせたいらしい1尾

「昨日は午前船で1.9キロ、午後船で3キロが上がったけど、水温が15度台に下がっちゃって食いが悪いね。今日は取材になればいいけれど……」と芳しくないコメント。しかし、本誌の過去取材では、悪いと言いつつも毎回結果オーライをもたらしてくれている本番に強い船長のこと。きつと今回もいい釣果が出るはずと期待して7時に出船となった。

**水温低下もなんのその**  
 竜丸が狙う釣り場は布良ノ洲ノ崎沖にかけての水深20〜75メートル。この日は東寄りに進路を取り、20分ほど走った辺りでエンジンがスローになった。各自2匹ずつのマイワシが配られ釣り開始となる。「75メートルからのカケ上がりです。底を2〜3メートルを与えないようにサミングしながら65メートルの海底に送り込む。ジリジリとアリが歩くような速度で巻き上げていき、底上5メートルに達したところでゴゴツ、ギューンとロッドが絞り返まれる。さほど大きくはないようだが、途中何度もロッドをたたく力強さは大本命っぽい。「やったー！マハタだ！」今度は真正正銘、自分が釣つての歓声だ。1キロ級だったが、アタリが遠い釣況下での1尾はこのうえなくうれしい。10時半を過ぎたところで洲ノ崎沖に移動。水深は60〜65メートル。ここで大矢さんにアタリ。おとなしく上がってくるのでカサゴかと思われたが、途中から暴れ出し、大矢さんの表情も真剣モードに変わる。上がったのは1キロ弱の大本命。無事タモに収まり満面の笑みだ。

船宿information

南房西川名港  
**竜丸**  
 ☎0470-29-0605  
 (詳細は巻末の情報欄参照)  
 ▶料金=根魚五目乗合午前船一人1万2000円(エサ、水付き)、午後船は1000円引き  
 ▶備考=予約乗合。午前船は船宿に5時半、午後船は12時半集合



安西 竜一 船長

正午となり沖揚がりのアナウンス。と、ここで、「あっ、ハタだ！」声の主は江森さん。500グラム級と小ぶりだ、これで4名全員大本命をキャッチ。結果オーライで帰港の途に就いた。当日の釣果は船中0.4〜1.8キロのマハタ4尾ほかカンコ、オニカサゴ、アマメカサゴなどが各自1〜4尾交じった。魚種多彩に釣れて楽しい生イワシエサの根魚五目。釣期は2月一杯なのでお早めに。



▲カンコやアマメカサゴなど多彩なカサゴ類が交じってくる

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!  
 これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

暦の上では春を迎えるものの、まだまだ寒い日も多い2月。防寒と感染予防は万全に、体調を整えて釣りを楽しみましょう。



▲マハタの当日最大は1.8キロにとどまったが、南房エリアには5キロオーバーも潜む

南房西川名港の竜丸といえばイサキ、マダイで定評のある宿として知られているが、年末までのマダイシーズンを終え、翌春のイサキ開幕までの1〜2月の期間は生きイワシをエサに使う根魚五目を看板に掲げている。大本命はマハタだ。1〜3キロ級を主体に5キロオーバーが上がることも。そして五目というだけにマハタ以外に釣れる魚種もカンコ(ウツカリカサゴ)、オニカサゴ、アマメカサゴといったカサゴ類のほか、ポイントによりアカハタ、アオハタ、ヒラメなども。どれもうれしい魚ばかりでクーラーが多彩に埋まること間違いなしの魅力な釣りだ。取材に訪れたのは1月中旬。集まった釣り人は私を含め4名。支度をしながら船長に釣況を伺うと、

ようこそ根魚パラダイス イワシ泳がせでドカン!

●南房西川名港発↓西川名ノ洲ノ崎沖 本誌ABC(東京)権名義徳 Yoshinori Shimizu

「昨日は午前船で1.9キロ、午後船で3キロが上がったけど、水温が15度台に下がっちゃって食いが悪いね。今日は取材になればいいけれど……」と芳しくないコメント。しかし、本誌の過去取材では、悪いと言いつつも毎回結果オーライをもたらしてくれている本番に強い船長のこと。きつと今回もいい釣果が出るはずと期待して7時に出船となった。

**知得! Tips and Tricks 船長推奨のハリ**

イワシ泳がせのハタ仕掛けのハリはイセアマやチヌが一般的だが、安西船長が推奨するハリは金龍鉤の「スズムツ16号」だ。「このハリを使うようになってバラシがかなり減ったよ」とのこと。取り扱っている釣具店が少なく、船長もわざわざ木更津まで買いに行っているそう。もし店頭で見かけたらぜひ買ってごろう。

▲船長イチ推しのハリがこれ

切つてね」アナウンスが終わると、「あちゃー、水温がさらに下がって14〜3度だよ。これじゃあハタどころかカサゴも厳



●しいな よしのり/本文には書けなかったけど、スッポ抜けやっちゃってます。しかも2回も。釣り歴と腕前は比例しませんね(汗)